

# 令和4年度病害虫発生予察情報 発生予報第15号(3月)

令和5年3月9日  
発表：福島県病害虫防除所

## 1 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	リンゴハダニ	中通り 会津	— —	やや少ない 平年並	越冬卵が確認されたほ場の割合は、中通りで平年よりやや少なく(－)、会津では平年並(±)であった。	発芽1週間前までにマシン油乳剤を遅れないように散布する。 農業総合センター果樹研究所発表の果樹の生育概況(令和5年3月1日現在)によれば、リンゴ「ふじ」の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合3月24日(平年比3日早い)と予測されている。
モモ	せん孔細菌病	中通り	—	平年並	春型枝病斑の発生予測モデルによると、発病枝率が2%以上となるほ場割合は、平年よりやや少ないと予測されるが、前年秋期の新梢葉での発生ほ場割合は平年並(±)であったため、越冬量は平年並であると考えられる。	春型枝病斑は見つけしだいせん除し適切に処分する。 開花直前及び落花直後の防除を徹底する。
	モモハモグリガ	中通り	—	多い	越冬成虫が確認された発生地点割合は平年より高く、一部地点では越冬密度も高かった(+)。	初期の発生密度を抑えるために、第1世代幼虫発生期(落花10日後)にネオニコチノイド剤を散布する。前年発生が多かった地域では防除を徹底する(今後、発表予定の「令和4年度病害虫防除情報(モモハモグリガ)」を参照)。
	シロカイガラムシ類	中通り	—	やや多い	前年秋期の側枝寄生の発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。	発芽前にマシン油乳剤を遅れないように散布する。 農業総合センター果樹研究所発表の果樹の生育概況(令和5年3月1日現在)によれば、モモ「あかつき」の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合3月23日(平年比1日早い)と予測されている。
	コスカシバ	中通り	—	やや少ない	前年秋期の発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(－)。	発生が多い場合は、樹幹及び主枝に殺虫剤を散布する。

ナシ	黒星病	全域	－	やや少ない	鱗片における越冬病斑の発生ほ場割合は、平年より少なかった（－）。 前年10月中旬以降、秋型病斑の発生が確認された（±）。	発芽10日前までに粗皮削りを行ってから、温暖無風の日に石灰硫黄合剤を遅れないように散布する。なお、発芽1週間後以降の生育期の防除は、天候や生育状況に注意しながら、防除タイミングを逸しないように実施する。 ハダニ類の発生が多い場合は、石灰硫黄合剤にかえてマシン油乳剤を散布する。ただし、樹勢低下した樹には使用しない。 農業総合センター果樹研究所発表の果樹の生育概況（令和5年3月1日現在）によれば、ナシ「幸水」の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合3月31日（平年比1日早い）と予測されている。
	ハダニ類（リンゴハダニ・クワオオハダニ）	全域	－	平年並	越冬卵が確認されたほ場の割合は平年並であった（±）。	

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。